2000 年の諸教会の歴史を学ぶ

歴史神学

組織的発展に注目します。それらの研究によって、現代教会の今後の形成のために具体的な諸指針を学ぶためです。

●歴史神学／教会史とは

歴史神学/教会史とは、歴史学という学問的ファインダーを覗き、いわば2000年にわたり世界史道路を走行してきたキリスト諸教会バスの信仰的活動の歩みと、それらの信仰・実践の総資産を撮影し点検する学科です。「歴史神学」は、主に教会バスの燃料にあたる福音理解などの神学思想史、「教会史」は、バスの車体にあたる礼拝と祭儀、教会制度や

●古代から宗教改革を経て現代まで

学部では、古代から現代日本までの教会の歩みを辿る教会史Ⅰ～Ⅴ、教理史（選択）、世界と日本の宗教史、ラテン語（選択）などを学びます。大学院では、古代から現代までの欧米、日本の教会の教理史、神学思想史、霊的生活史などの科目が開講され、学部での学びが更に深められるようコースが用意されています。

2013年度 大学院博士課程前期課程1年
加藤直樹

●「教会史特講」の授業紹介

信仰や教会の様々な歴史に触れると現代が新しく見えてきます。歴史神学は未来を見通します。

棚村教授の教会史特講では、時代や地域を異にした、数多くの神学思想（神学思想家）を学んでいます。本年度は、17世紀～20世紀の日本・欧米の資料を用い、その中に描かれている教会の姿や信仰理解を読み取っています。

さらに、この講義において特徴的な学びは、日本と欧米の資料を比較検討し、国際的な教会の関係を見出していく点です。日本にある教会は、どのように欧米の教会から信仰を継承されてきたのか、独創的な研究のひとときです。

時には軽快なジョークも飛び出し、深く楽しく教会史を学べる講義です。

牧師になるための実践的な学び

実践神学

して用いられるために「説教学」「礼拝学」「牧会学」「キリスト教教育学」「教会の法と制度」の学びが必要になります。

●神の実践に参加するために

実践神学とは、もともと「牧者の学」「司牧学」と呼ばれていました。現在は「神の実践」すなわち「神の救済行動」を主題とすることを明確にするために「実践神学」と呼んでいます。牧師のつとめは、生きて働かれる「神の実践」に参加させていただくことです。「神の実践」とは「神の救済の御わざ」です。神の救済行動の中で人間が神の道具と

●召命と自己吟味の課題も

神が主導権をとってくださる時、人間が〈牧者・羊飼い〉としてたてられ、神に用いられる奇跡がおこります。一人の人間が〈牧師〉とされる「神の召命」について学び、自己吟味する課題も『実践神学』の重要な学びのひとつです。十字架の福音の伝道によって神の民を集め、神の国を待ち望む『日本伝道論』は、実践神学の主要な関心です。

2013年度 学部4年
飯島喜世恵

●「教職概論」の授業紹介

ディスカッションによって学びの課題をしっかり把握する力を養います。

「教職概論」の初回授業で配布されたのは、教授が準備されたテキストと諸資料でした。中学、高校の宗教科教職免許を取得するために必要なこの学科は、教授のレクチャー、テキスト分担箇所の学生の発表、意見交換によりなされます。

学生たちには積極的な意見交換が求められ、真に学識豊かな教授と、年齢や入学以前の背景が様々に異なる学生たちと共に学ぶクラスは楽しく、恵みに満ちています。無駄なことは何一つなく、国際的な視野の広がりの中で、見識や課題を正しく把握する力を身につける経験を重ねることができ喜んでいます。